

学童保育指導員を続けたい！

私たちのこの思いを聞いてください。

12月7日に開かれた「公設・公営学童保育の拡充と指導員の継続就労を求める緊急集会」で指導員を代表して2名の方からの意見表明を紹介します。

思い起こせば25年前、何を聞き間違えたのか、午後4時間で、春、夏、冬休みは学校と同じでお休みという仕事があるけどやってみないと友達から言われてこの指導員の仕事を始めました。

夏休みとかは、朝8時半から夕方はお迎えの子を待っていたら、6時、7時までの勤務は当たり前でした、でも子どもたちの為は勿論、親の労働を保障しようと今まで頑張ってきました。

当時は賃金は低く保障もない中でしたが、父母と共にバザーをしたり物品販売で卵配達・ワカメ・靴下・肌着・野菜といろいろやって来ましたが、雪の日の卵配達は今でも忘れられません。

当然売り上げは少ない委託料と共に運営資金の一部となりました。

大変な中から時給アップ・労働条件など除々に良くして頂きやりがいももてました。

保育の他にやらなければいけないことは山ほど、何でこんなことまでやらなければいけないと疑問を持ちながらも子どもたちの笑顔に励まされ大切な成長過程の一翼を担っているんだ、私のやっている事も人の為にいくらかなっているんだと思うと続けていこう、頑張ろうという気持ちに変わりましたと同時に私の収入も生活の一部となっていたのも事実です。

続けてきたおかげで今では地域に仲間という尊い財産を増やすことが出来た事を感謝しています。

2000年4月から私たちの念願だった公設公営の学童保育がスタートしようとしていますが、内容が納得の行くものではありません、このままでは今までつちかってきた保育内容などの継承されない不安があります。

指導員は非常勤一般職で一般公募、ようするに今の指導員は実質的な全員解雇今までやって来たことは何だったのでしょうか、悔しさでいっぱいです。

市は私たちに対して「続けたい人はどうぞ競争試験を受けてください、合格することを祈っています。」と言っています、そんな事は許せません。

その上今まで父母の方々が大変な思いをしながら保障してくれる賃金や労働条件を下回る内容では生活も成り立ちません。働きたくても働けない毎日ため息の連続です。

皆さんどうぞ今の学童保育の内容を後退させない公設公営になるようにお力をお貸しください、よろしく願いいたします。 (50代 女性)



船橋市学童保育指導員労働組合

1999年12月13日 連絡先 小栗原小学童保育

no.16

今まで大切にしてきたことを



受け継いでいきたい

私は、この仕事に就くまでは学童保育のことは全く知りませんでした。どんなところなのかな？と、クラブに見学に行ったのはちょうど3年前のことです。突然の訪問だったのですが、1年生の男の子2人がこまの回し方を教えてくれたり、外遊びでは王とりをして走り回ったり、おやつを食べ、その後たくわんづけの取り組みで大根を干しました。ちょっとだけのつもりが最後まで過ごしてしまい、「またこの子たちにあいたいな」という思いが生まれていきました。

そして2カ月後から学童保育指導員という仕事を始めることになったのです。

「ただいまー！」と子どもたちが帰ってきます。
「おかえりー！」指導員と子供たちとの生活が始まります。
それは3年前も今もそしてずっと前から変わらないことです。
「今日はサッカーやるんだあ」と自分のやりたいことを始める子。
「宿題やっちゃおう」とノートを出してくる子。
「ころんじゃったー」と帰ってきて手当をしよう子。
「おやつなあーに？」と台所をのぞく子。
「帰り道で拾ったよ」と大きなイチョウの葉っぱをプレゼントしてくれる子。
暗い顔をして「○○にいやなこといわれたの」と涙する子。



いろんな思いで帰ってきた子どもたちがジャングルクラブという空間で生活を始めます。

そして、いろんな遊びが展開されていき……「バイバーイ！また明日ねー！」と帰っていくのです。「また明日ね」「また明日やろうね」という言葉も毎日毎日使われてきた言葉です。しかし、来年の3月31日にこの言葉を使うことはできるのでしょうか。来年も働き続けることができるのかどうか、わからない今、子供たちと過ごす毎日がとても貴重なものに思われます。一緒に「きれいだねー」と眺めた夕日とか、体を小さくしてかくれている缶けりだとか、手をつないで歩きながらのおしゃべりとか、ちょっとしたひとコマひとコマがとても大切なものになっています。

公設公営に対する市の考え方が少しずつ明らかにされている中で、たとえ枠だけ整えることができたとしても、指導員の労働条件が不安定なものであっては、ゆとりを持って子どもたちと接することはできないと思うのです。

また、私は子どもと接しているときだけでなく、子どもたちを真ん中にして、お家の方と伝えあう中で「ああこの仕事っていいな…、学童保育っていいところだな」と、最近よく思います。今まで大切にされてきたものや大切にされてきた関係を公設公営後もそのまま受け継いでいかれるように訴えていきたいと思っています。

(20代 女性)